サヨナラ六高女夜学校

昭和14年卒業　中村芳子

府立六高女夜学校開設第一回入学生として校門をくぐったのは、もう六十余年前。

遅刻すれすれにかけこむ学校には気力十二分の先生方が待っていて下さった。多くの先生方が昼は研究に、或は学究の徒として研鑽をつまれ、夜教壇に立たれていた。

その真摯な学究的態度は私達の幼い心に灯をともし、あこがれにも似た思いをいだかせたのである。

今思えば幼稚な程度であったろうが、「知る」という喜びに燃え向学心をそそられた夜毎であった。例えば家庭科の洗濯の授業はまず毛管現象の説明から始まるといったように。

良き先生方を揃えられた丸山文作先生の長としての偉業の一つであったと、今更乍ら感謝の念を新たにする。

この師弟の熱い想いが後の補習科、次いでは初めての夜間の女専誕生への道を拓いたのである。

友人と「これが最後ね」と言い乍ら出席した70周年記念総会・祝賀会。夫々の方の熱意と献身の演出による会の成功に大きな感銘をうけ、同じ壇上で新しい校歌と古い校歌を共に歌う事が出来て思い残すことなく、六高女夜学校へサヨナラする事が出来た。

形は変っても、友と一緒に学ぶ事の楽しさをいつまでも持ちつづけてほしいと念じつつ。

老いとよろこび

昭和19年卒業　森田康子

「姥捨山」を想う時、老いは悲しいが、今、健康で、そこそこ年金のある限り私はよろこびと感じます。夫80才、私は74才、老々介護の時期に入りました。

学徒出陣組の夫は、あの『神の国』発言に拍手を送り、日教組に組している娘に顰蹙を買っています。その学徒も80才。老いてガタガタです。私は夫の自立の為なるべく手を貸さないよう、そして、尊厳を冒さぬよう気をつけています。若い時は亭主関白でした。共に老いて相互を認め合う……終りよければ良しとします。

今、私は地元の高齢者混声合唱団でもう十年余歌って居ります。喜怒哀楽を歌に託し楽しんでいます。『二人の擲弾兵』シューマン作曲、一八六〇年、詩はハイネ。ハイネと言えば愛らしいと思いましたが、途中ナポレオンが負け敵地に捕らわれた兵隊二人が苦しむという歌詞の中で妻子が乞食になっても、皇帝が再起すれば戦争に馳せ参じる。そして、フランス国歌で終る……。バリトンの名曲だそうですが、私共のバリトンは、おじいさんばかりで盛り上らず全員で歌います。来年定期演奏会にむけて励んでいます。

ただ妻子が乞食になっても皇帝が再起すれば戦場に馳せ参じると言う詩が誤訳であってほしいと思います。

あの感動をもう一度

昭和36年卒業　梶野　稔

「卒業の時に歌った『あの歌』をもう一度母校で歌いたい」。こんな長年の願いが、母校の七〇周年記念祝賀会で思いがけなく実現しました。

『あの歌』とは、送別会で卒業生の出し物として歌った「八木節」、「花の三田高校」、「学び舎への別れ」という3曲です。

八木節は、本物の酒樽や拍子木でチャカポコ、チャカポコやりながら、「花の三田高校」は、十五番までもあるという長丁場の曲、「学び舎への別れ」は、音楽の鈴木先生に見ていただいて、「きみー、これじゃあ音域が広すぎて歌えないよう」と忠告されたにもかかわらず、「みんなで唱えば怖くない」、と唱ってしまったという代物。

当時の私達というと、度はずれたことや馬鹿騒ぎが大好きな連中が多く、合唱とはいえ、既成の曲をまっとうに歌おうなどという気はさらさらなく自作自演の青春歌？を並み居る在校生や先生方の前で臆することなく高らかに歌い上げたというわけです。

おかげさまで晴れの舞台で一三期生二十数名が「あのときの感動」を心ゆくまでリピートさせていただきました。

本部の皆さん、参加された皆さん、貴重な場を提供していただき、何ものにも代え難いプレゼントをありがとうございました。

三田の時代を振り返って

昭和43年卒業　釜与志雄

私が三田を巣立ってから早や、32年の歳月が流れようとしています。

若かった頃の沢山の想い出をくれた三田は、自分には今でも尚、心の故郷です。

あの頃の事は、つい昨日の出来事に思えるのに今の我が身を覚えれば、それも夢の又、夢の如くです。

時の移るのは、あっという間です。

いつまでも強がりで、若いとは言っていられない現実があります。

創立70周年の式典に、久々に参加させて頂き、今になつかしい恩師の方々、沢山の先輩方にもお逢い出来、とりわけ同期の仲間との対面には感激。

それは昔、乙女の様な彼女たちが、それなりに素敵なお姉さまになった事。男子諸君が、又々熟年のオジさんに見えた事。

これも皆、歳月の成せる技です。

式典終了後、別席にて25年ぶりの同期会が開催され、全国各地から40名程の参加があり友の絆を深める事が出来ました。

三田で過した僅かな時は、今の私を支える大きな原動力となっています。

出身地の新島に帰り、勝手気ままな自由業に専念しながら、今は平穏な毎日を送っています。

いつも、同窓会の役員の方々の努力に感謝を申し上げます。

ありがとうございました。

しあわせ

昭和50年卒業　平山芳三

「学校へ
通えるだけで幸せ!!」
忘れかけた心を
不況と同窓会で
とりもどしました
ありがとう
しあわせです